

特集 1

IT 活用教育の発展に向けて

ITの進化に伴い、近年、ネットワークインフラや情報機器を活用した情報教育・e-Learning が注目を集めています。金沢大学においても、本学学生に対する情報教育・e-Learning システムの活用のみならず、大学間・地域社会に向けてのITを利用した教育システムの確立が急務とされています。

今回、本学のIT教育活動を支える様々な取り組みについて、3本の特集記事を組みました。

IT 教材作成支援室

～金沢大学の e-Learning 教材を支援する IT 教材支援室を紹介します～

総合メディア基盤センター 情報教育部門助教授 松本 豊司

1. 現代 GP プログラムおよび体制

教材支援室は平成 16 年に採択された文部科学省 現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代 GP) のテーマ 6:「IT を活用した実践的遠隔教育 (e ラーニング)」において、「IT 教育用素材集の開発と IT 教育の推進」という研究プロジェクト (以下 現代 GP プログラム) に端を発する。

本学における現代 GP プログラムの体制を図 1 に示す。プログラム本部は本部長に橋本哲哉情報担当理事をいづく人事・基本方針などを決定する組織であり、ここで決定する基本方針に基づいて、IT 教育実施委員会で教材開発を行う体制となっている。IT 教育実

施委員会は当センター情報教育部門の鈴木教授が委員長であり、学内の教員有志で構成されている。また、教員は教材作成小グループを構成して基礎科目を中心に教材作成を行っている。教材開発の計画実施および予算執行の管理など事務的作業は事務局 (以後 IT 事務局) で行う。IT 事務局は、総合メディア基盤センターの教員 3 名と大学教育開発・支援センターの教員 1 名のほかに、このプログラムで新たに雇用した専属の教務補佐員 3 名と技術補佐員 1 名で構成されている。IT 事務局の教員の教材作成を支援する体制が今回紹介する IT 教材支援室である。

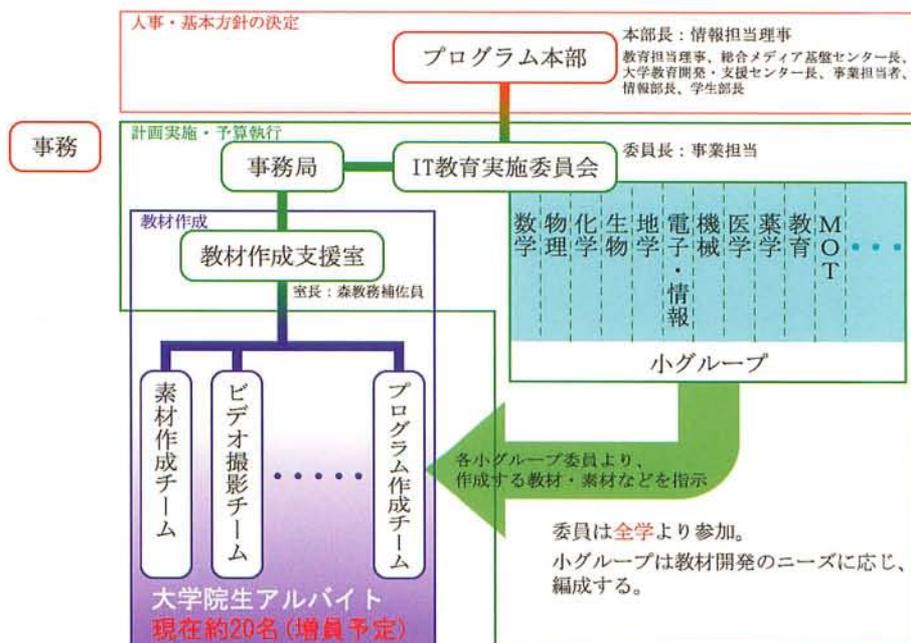


図 1 本学の現代 GP における体制

2. IT 教材支援室の役目

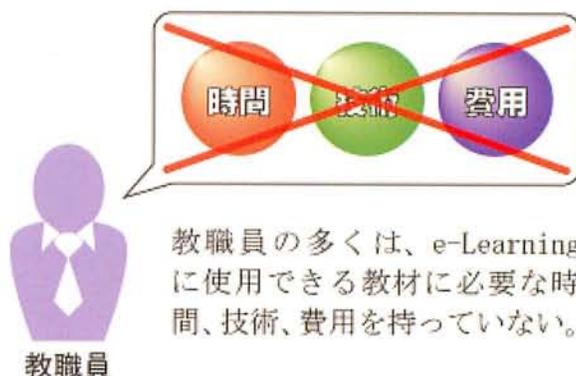
現代 GP プロジェクトでは、「正規授業へのブレンディド e-Learning の導入」を主目標とし、以下の 2 点を実現させるために必要な e-Learning 教材を開発することとしている。

- ・対面授業においてマルチメディア（様々な図や写真、動画等を用いたシミュレーションなど）を活用し、学生の興味をひき、講義内容のより深い理解を促す。
- ・ネットワークを活用した予習・復習・課題演習などの自己学習システムを構築し、大学設置基準の定めによる 1 単位 4 5 時間の実質化を図る。

これまで本学においては、一部の熱意ある教員の取り組みを除いて、教材作成が進まず、教育への e-Learning 導入が進展しなかった。これは教員に熱意があっても、予算が無い、時間が無い、技術力が無いなどの問題があったためである。これらを解決し、教員の負担を極力減らすために、IT 教材作成支援室は作られている。

3. 教材作成支援の方法

教員の負担を減らすために、教員（実施委員）の仕事は教材開発の企画を行うことのみを主としている。教材作成の実務はアルバイト学生あるいは教材作成支援室が行う。可能であれば、アルバイト学生として教員の研究室の学生を現代 GP プロジェクト予算で雇う。このことにより内容を良く理解した働き手の確保と、研究室の学生の収入の確保の一石二鳥の効果が望める。研究室で有能な学生アルバイトが望めない場合は IT 事務局雇いのアルバイトが教材作成を行う。こうすることで、e-learning を行いたい教員が、容易に



IT教材作成支援室

組織的に、教材作成の支援をすることが必要。IT 教材作成支援室を設置し、作成の手助けをする。

図 2 教材作成支援室の必要性

教材開発を行える。

現代 GP プロジェクトにおける教員の負担を減らすもう一つの工夫は教材の素材化である。教材作成に必要な素材（図や写真、テキストなど）を素材単位に開発し、データベース化する。データベース化された素材は、特に制限がない限り公開され、利用したい教員が自由に利用することが可能である。足りない素材のみを自ら作るだけで、それぞれの教え方に合った e-Learning 教材を簡単に作成することができる。また、次年度に教材の構成を変更する際にも容易に行える。



図 3 開発した素材から教材を作成するシステム

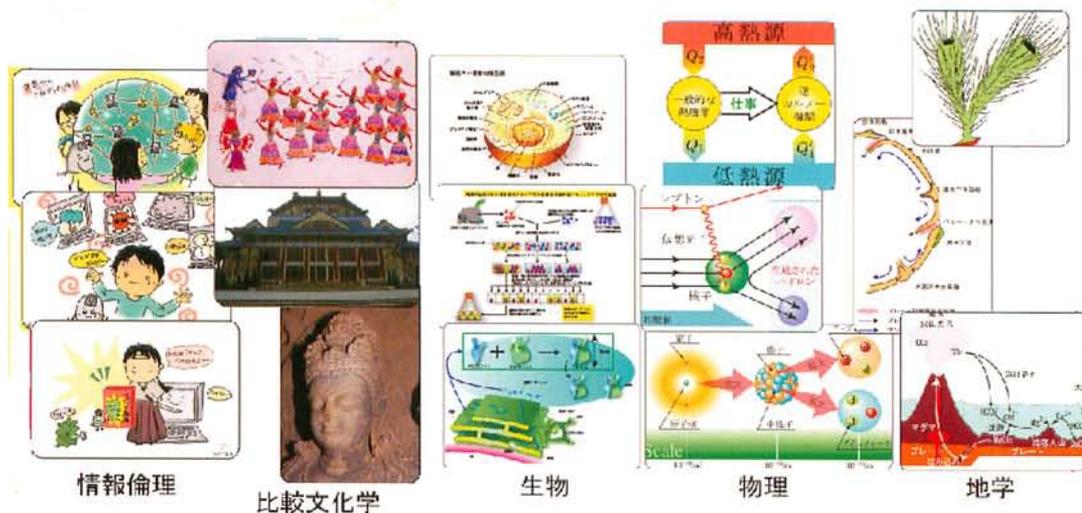


図4 これまでに作成した素材のサンプル

4. 教材作成支援体制

IT事務局の下にはIT教材作成支援室を置き、大学院生および学部学生を主体とした独自のアルバイトチームを作っている。現在、IT教材作成支援室でアルバイトをしている大学院生および学部学生は20名程度であるが、今後、作成の数の増加に合わせて逐次増員する予定である。

アルバイト学生は、ビデオ撮影チームや素材開発チーム、Java Appletなどのプログラム開発能力を持つチームなどが作られている。またデザイン関係は、外部のデザイン専門家へも頼める体制を取っている。

表1に支援室スタッフの業務分担を示す。教材作成に関して相談したい分野に応じてご相談ください。

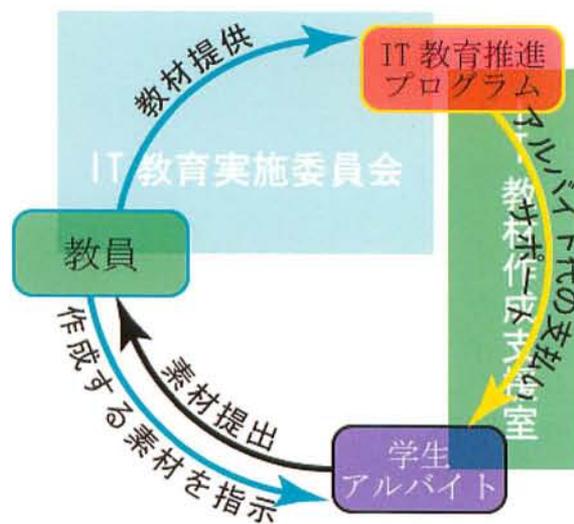


図5 教材作成の流れ

氏名	役割分担	電話	e-mail
森 祥寛	支援室長, 事務統括	6117	mori@el.kanazawa-u.ac.jp
瀬川 忍	経理	6079	segawa@el.kanazawa-u.ac.jp
佐藤伸平	教材作成 (理系)		shimpei@el.kanazawa-u.ac.jp
林 智	教材作成 (文系)		hayashi@el.kanazawa-u.ac.jp
松尾明日香	アルバイト管理		matsuo@el.kanazawa-u.ac.jp

なお、全般的なお問い合わせは以下まで。

連絡先：IT教材作成支援室
 電話：076-264-6117, FAX：076-264-6079
 E-mail：it-sien@el.kanazawa-u.ac.jp